

日本女性会議に参加して

八頭町男女共同参画推進会議 藤田ちえみ

日本女性会議 2025 橿原が 10 月 3 日～5 日に奈良県橿原市で開催され、この会議に八頭町リーダー研修として参加することができた。私は 1 日目と 2 日目に参加した。

1 日目は分科会 2 つに参加した。はじめに参加した分科会は「家族」がテーマで、男性の家事や育児参加、社会と家庭の課題について学んだ。その中で「男の家事は避難訓練」という言葉が印象的だった。家事を“できる人がやる”のではなく、“誰もができるように育てる”という視点が重要だと感じた。我が家では、夫が料理をする事が多いが、その事を周囲に話すと「良い旦那さん」「うらやましい」と言われる事が多くある。しかし、私が料理をしてもこの様な言葉をかけられることは、ほとんどないであろう。八頭町でも、男性の家事参加を促す啓発活動を進めていきたいと感じた。

次に、参加した分科会は「DV・デート DV」がテーマで、子どもたちの「健康」「安全」「人権」を守り、幸せに生きるための性教育を推進することの大切さを学んだ。「性教育は団体戦で長期戦」という言葉が心に残った。境界線と同意の大切さ、SNS に潜むリスク、そして大人の態度が子どもに与える影響など、教育現場や家庭での実践に直結する内容ばかりであった。八頭町でも保護者や教育関係者と連携し、包括的性教育の環境づくりを進めたいと強く感じた。

2 日目のシンポジウムでは、「スポーツとジェンダー」というテーマに特化し、有森裕子氏(元プロマラソン選手)と現役女性アスリートが意見を交わした。スポーツ界におけるジェンダー課題の解決と、女性アスリートの心身のウェルビーイング(幸福)を実現するための具体的なケアと意識改革の必要性を訴えるものだった。有森裕子氏の「走ることを喜びに」という言葉が印象的だった。若い世代の声を聞き、学術的な視点も交えたこのシンポジウムは、スポーツを通じた自己肯定と健康づくりの重要性を再認識させてくれた。

次に、特別講演会では、「ポジティブ脳で幸せに過ごすために」と題し、アン ミカ氏(モデル・タレント)が自身の人生経験に基づき、「生まれつきではないポジティブ思考」の育み方を伝え、「他者(特に母)からの肯定的な承認」が自己肯定感を高め、前向きな行動につながることを強調された。また、ポジティブな内面だけでなく、「姿勢や所作」といった外面を意識することで良い印象に結びつくことを、実践を交えて教えてくれた。

今回、この会議に参加したことで、男女共同参画の推進は「制度」だけでなく、一人ひとりの「日常の意識」や「関係性の築き方」に深く関わっていることを実感した。誰でも暮らしやすい社会は、自分とは違う人を排除するのではなく、学び、理解し、実践することで築かれていくと感じた。私も地域の皆さんと共に、誰もが安心して暮らせる社会づくりを目指し、できることから一歩ずつ取り組んでいきたい。貴重な研修に参加させていただきありがとうございました。



(分科会の様子)